



# 和! わっ! 輪!

**兵庫県立尼崎病院**

〒660-0828

兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号

TEL 06-6482-1521 (代表)

FAX 06-6482-7430

<http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/>

## 医療の交差点

脳神経外科部長 橋本 研二

神経内科部長 市川 桂二

## 頭のことならお任せ! 神経・脳卒中センターの設立

脳神経外科

### 高血圧のあなた、一度は脳の検査を。

脳動脈瘤の破裂による“くも膜下出血”

県立病院間の診療機能見直しに伴い、本年1月県立塚口病院から県立尼崎病院へ脳神経外科が移管・開設されました。当院には以前より神経内科がありますが、今後、脳神経センターとして脳神経系領域における内科的・外科的な診断と治療の充実が期待されます。

今回は、脳神経外科領域でも特に重要な疾患の一つである脳動脈瘤のお話をしたいと思います。

働き盛りの年配の方が、急に頭痛で倒れ、救急車で病院に運ばれるも半数の方が命を落としたり、寝たきりなど重い後遺症を残すのが「くも膜下出血」(写真1)です。その原因の多くは、「脳動脈瘤」と呼ばれる血管のこぶ(写真2)が破れるためです。その頻度は、年間人口1万人あたり2-3人程度とされていますが、家庭の大黒柱が急に倒れてしまうことから強い関心が持たれています。

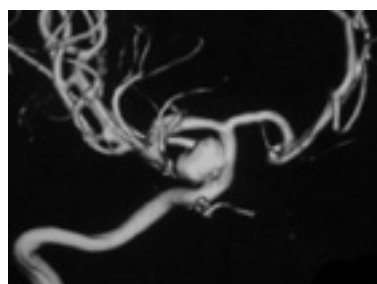


写真2:脳動脈瘤

この脳動脈瘤は、破れるまでは症状が無いのですが(未破裂脳動脈瘤)、一旦破れると、今までに経験したことのない突然の強い頭痛と吐き気を覚えます。

そのような時には、夜間や休日であっても、すぐに脳神経外科専門病院を受診し、適切な診断と治療を受けてください。

また、脳動脈瘤を破れる前に発見し、予防的治療をおこなうこともできます。最近では、脳ドック

検査の普及や脳梗塞などの検査で、破れる前に偶然に見つかる方が増えています。

報告では、中高年健常者の5%前後に見つかるとも言われ、その内、年間0.6%の方が破れると言われていています。動脈瘤の形態がいびつであったり、大きなもの(7mm以上)、あるいは、高血圧をもっておられる方では、更に破れやすいようです。破裂を未然に防ぐには手術によるクリッピング術や、血管内治療によるコイル塞栓術があり、瘤の部位や形により選択されます。

ご家族にくも膜下出血の患者さまがおられる方や高血圧症の患者さまは、一度検査されてはいかがでしょうか。

県立尼崎病院では、現在、私たち4人が(右記写真)脳神経外科診療を担当していますので、脳動脈瘤だけでなく他の脳神経疾患に関して、遠慮なくご相談ください。(橋本研二)

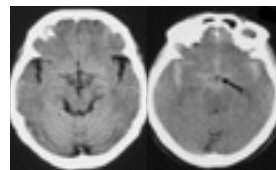
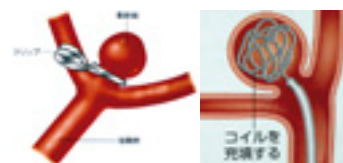


写真1:正常CT(左)とくも膜下出血(右)



クリッピング術

コイル塞栓術



左から: 箸方、松林、橋本、水谷医師

## 神経内科

## 時間が勝負！迅速な検査と治療をめざして

超急性期脳梗塞の治療から神経難病の治療まで

急速な医学の進歩と医療改革に対応するために県立病院の改革が進行中です。その一環として、この地区の脳卒中と神経難病の医療は尼崎病院に集められることになりました。具体的には今年1月に塚口病院脳神経外科が当院に移り、当院の神経内科と一体となった神経・脳卒中センターが今月発足しました。神経内科と脳外科合わせて10名の医師が皆様に県立尼崎病院に来てよかったとだけいただけるよう、より充実した診療をめざします。

## &lt;神経内科での新しい取り組み&gt;

1) 発症直後の脳梗塞に対して血栓溶解療法をはじめました。

これはアルテプラゼというお薬を静脈内に注射し、脳血管につまった血栓(血のかたまり)を溶かす治療のことです。血栓が溶けて脳動脈に血流が戻ると病状の改善や悪化の予防が期待できます。

しかし、この治療の大きなポイントは、CT検査を含めた検査で脳梗塞と診断し、症状が出てから3時間以内に治療が始められるかどうかです。

突然「手足が動かない」「しゃべりにくい」などの脳梗塞の症状が出た時には、即座に当院へご連絡のうえご来院ください。

2) 半側顔面けいれん症（顔がピクピクうごく）や痙攣性斜頸（首が曲がってくる）などのご病気に悩んでおられる患者様にボトックスという注射薬による治療を本格的に行います。

3) 神経難病の患者さまの治療や療養生活の向上にむけて兵庫県の拠点病院として併設の兵庫県難病相談センターとともにこれまで以上に取り組みます。

## &lt;最新鋭の画像診断機器が続々入ります&gt;

脳疾患の診断には、CTやMRIなどの高精度な画像診断装置が不可欠で、それらを駆使した迅速検査が必要です。当院でも下記の最新鋭・最高水準の画像診断装置が、新たに設置されました。

- 64列マルチスライスCT装置
- 核医学画像・CT画像との即時癒合可能なガンマカメラ
- 現有の2倍の磁場強度をもつ最新鋭の3テスラMRI(予定)。

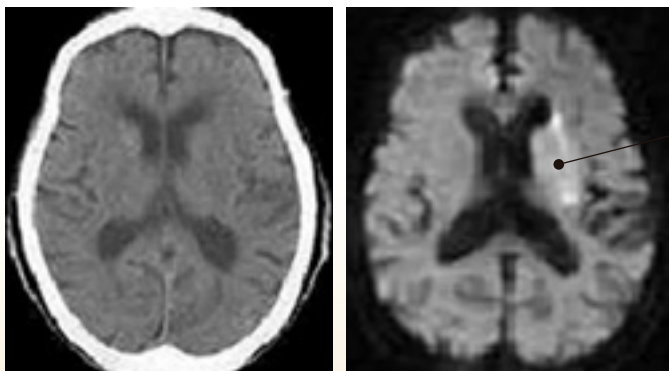
これらの機器により、皆様に侵襲的なご負担をおかけすることなく脳卒中、認知症、パーキンソン症候群、多発性硬化症、脳炎、髄膜炎などの神経内科疾患の診断能力が飛躍的に向上します。

皆様に信頼され、愛される神経・脳卒中センターを目標に努力致しますので、どうぞよろしくお願いたします。(市川桂二)



後列左から：細見、山田、影山医師  
前列左から：松本、市川、丸本医師

脳梗塞発症3時間でのCTとMRI



脳梗塞

CT(左)では脳梗塞はまだ見えませんがMRI(右)なら脳梗塞は白く描出されます(矢印)。

# お節介チーム VST!!

## 診療科の垣根をこえた医療活動

### VSTって何？

人工呼吸器サポートチームは、英語の頭文字を略して、VSTと呼ばれています。

病院内には、内科とか、外科とか、眼科とか、いろんな診療科があります。それぞれの診療科は、例えてみれば独立国家のような個々の存在で、相互の横の医療的つながりはあまりなく、特に、大きな病院ほどその弊害が目につきます。でもご安心ください。県立尼崎病院の良いところは、いろんな診療科が互いに協力しあって仕事をしているところにあります。当院には各科の垣根をこえて医療活動をするチームがたくさんあり、VSTもその一つです。

VSTは、人工呼吸療法に関心がある職員が自発的に立ち上げた院内組織で、「政府公認NGO」みたいな組織です。院内には、もともと、呼吸療法認定士の資格者がたくさんいました。この資格を有するスタッフを中心に、VSTは、臨床工学技士、看護師、理学療法士、医師より構成されています。ちなみに呼吸療法認定士とは、「吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法及び人工呼吸などの呼吸療法」に興味があるスタッフが自主的に勉強して取得した資格です。



左上から：松山、遠藤、清水、山田  
左下より：多田、今木、寺澤、吉原  
上記以外のスタッフ：影山・岡田・吉見・永井

### VSTの活動内容は？

#### ■人工呼吸器装着患者へ回診

最近の人工呼吸器はコンピューターそのものです。毎年、どんどんバージョンアップして性能が良くなっていますが、それを理解して使いこなすのも大変です。VSTスタッフは、毎週1回、人工呼吸器の治療現場を訪問回診し、いろんな問題点の検討や解決策を模索しています。

VSTは、人工呼吸器治療スタッフをサポートする「とてもお節介な組織」です。



「とてもお節介な組織」による回診写真



#### ■医療機器の管理と整備

電子医療機器などを管理するエンジニアとも言える臨床工学技士によって、いつでも直ぐに、かつ、安全に使用できるように、人工呼吸器の管理や整備もおこなっています。

機器整備室での機器管理  
左より村山、西肥、益田、福山

#### ■新人の医療者への教育

教育も大事な仕事です。県立尼崎病院には、毎年、たくさんの新人ナースや研修医がやってきますが、彼ら、彼女らに、人工呼吸療法の醍醐味を体得してもらうのも我々の仕事です。

(福山 学)



新人医師への実践に即した勉強会

## ルポ がん患者様の家族を支えることの大切さ

### 緩和ケアセミナーに参加して

平成15年1月に、がん患者様をサポートすることを目的とし緩和ケアチームが院内に発足し、現在、コンサルテーションを主とした緩和ケア活動がおこなわれています。

緩和ケアチームの大きな役割は、医療チームのもと、がんの患者様の身体的、精神的、社会的な苦痛の緩和を図り、一人でも多くの方が安心して、自分らしく精一杯生きることが出来るための支援です。

緩和ケアチームを支えているのが、医師や看護師を中心に、薬剤師、理学療法士、栄養指導師、医事課職員など院内種々の医療スタッフにて構成される緩和ケア部会（総勢26名）です。

その緩和ケア部会では、緩和ケアの質の向上と院内での緩和ケアの啓蒙活動を目標に、院内勉強会や、院外から講師を招いた緩和ケアセミナーを定期開催しています。

平成19年2月22日の第7回緩和ケアセミナーでは、沼野尚美先生（六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー）をお招きし、「終末期がん患者をもつ家族への援助 ～スピリチュアルケア～」の演題で講演会が、当院の講堂にて催されました。

沼野尚美先生は、「がん患者の支えになるものは99%が家族であり、残された命の使い方を家族が正しく理解できるようにサポートしていく必要性がある。」と言うことを力説されました。普段の医療現場では、どうしても患者様の方へ看護の目が向いてしまいますが、患者様の家族への看護支援も大切であることを改めて認識しました。

闘病中に生じる患者様の気持ちの変化に、家族と我々医療者が速やかに対応でき、家族を支援することの結果、患者様がその人らしく人生を終えられるように、今後もチーム全員で取り組んでいきたいと思いました。（内藤 美香）



緩和ケア部会会議風景



講演中の沼野先生

## ～お知らせ～

「和！輪！わっ！」を当院ホームページでもご覧いただけるようになりました。

今までに発行した第1号からすべて掲載しております。手に入らなかった号がある方、下記 URL にアクセスしてみてください。

<http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/>



## 編集後記

この冬は暖冬だったため、暖かい日が続きましたが、いよいよ緑が輝く季節になりました。

さて、皆様のご協力を得まして、この広報誌「和！輪！わっ！」も第4号を発刊することができました。厚くお礼を申し上げます。

県立尼崎病院は、県民の皆様の信頼にお応えし続けるようスタッフ一丸となって、より質の高い医療を目指しております。

この広報誌が、皆様と当院との太いパイプ役になるよう、役立つ情報満載の広報誌「和！輪！わっ！」をお届けするように頑張りますので、よろしくお祈りします。



吉原義文

「和！輪！わっ！」に対するご意見・ご感想をお待ちしております。

**Mail** info@amahosp.amagasaki.hyogo.jp

**Tel** 06-6401-5115

**Fax** 06-6482-5774

県立尼崎病院  
地域医療室